

検査項目情報（尿検査）

2010年12月作成

尿検査： 尿は腎臓で作られ、その成分は身体の代謝によって生まれた老廃物です。糖尿病、腎疾患、感染症、栄養障害などの疾患では本来尿の中には出てこない物質がでてきます。尿検査では、尿の中の成分や性質、量などを調べることによって体に異常がないかを知ることができます。当院検査科では機器と試験紙を用いて12項目を測定しております。

尿沈渣検査： 腎臓や膀胱の状態がわかります。尿中には健康な方でもいろいろな成分が排泄され、それぞれの成分の医学的な意義は他の検査結果と併せて判定されます。

	【項目名】	【項目名称】	【基準値】	【単位】	【検査の説明】
尿検査	GLU	尿糖	(-)	g/dl	一般的には血糖値が160~180mg/dl以上になると、尿糖が出るといわれています。糖尿病のような高血糖では尿糖陽性となります。
	BIL	ビリルビン	(-)		急性肝炎、肝硬変、肝内胆汁うっ滞など肝胆道系の障害や溶血性貧血で陽性となります。
	KET	ケトン体	(-)		ケトン体は脂肪の代謝産物（燃えカス）です。糖尿病・激しい嘔吐・飢餓状態などで陽性となります。
	SG	比重	1.010-1.025		
	OB	潜血			腎臓や尿管、膀胱、尿道などに異常があると、尿の中に赤血球が混ざってくる場合があります。赤血球以外のほかの成分でも陽性を示す場合があります。
	pH	pH	5-7.5		健康な人の尿はふつうpH5（酸性）～pH7.5（弱アルカリ性）の間で変化します。病気だけでなく、食事でも変わります。
	PRO	尿蛋白	(-)	mg/dl	糸球体腎炎、腎不全、ネフローゼ症候群など腎障害があると尿中に出てきます。健康な人でも一時的な生理的タンパク尿が見られます。
	URO	ウロビリノーゲン	0.1	mg/dl	ビリルビンと同様に肝胆道系の疾患で増加します。
	NIT	亜硝酸塩	(-)		亜硝酸塩陽性は細菌感染を示唆します。
	WBC	白血球	(-)		膀胱・尿道炎など細菌等の感染によって白血球反応が陽性となります。
	色調	色調			薬の服用や腎臓での濃縮の度合いによって色調は様々に変化します。
	混濁	混濁			尿路感染が原因となる場合もありますが、健康人でも結晶の析出で混濁の見られる場合がありますので、必ずしも異常とはいえません。
尿沈渣検査	赤血球		4個以下/HPF	HPFとは： 顕微鏡的強拡大	尿には赤血球、白血球、上皮細胞、細菌、結晶成分などのいろいろな形をしたものが含まれています。膀胱の上皮など大きなものもあります。これらは有形成分とか細胞成分と呼ばれています。尿をキレイな上澄みと沈殿物に分離してを機械や顕微鏡で見る検査で、これらの沈殿物（沈渣：ちんさ）の数や形を検査します。主に腎臓や尿路系の病気がわかります。
	白血球		9個以下/HPF		
	上皮細胞		4個以下/HPF（男） 9個以下/HPF（女）		
	円柱		1個以下/LPF	LPFとは：	
	細菌		(-)	顕微鏡的弱拡大	

検査結果や検査項目（記載以外の項目を含む）の詳細については、主治医にご確認願います。

市立小樽病院 検査科

検査値の基準範囲とは、健康と思われる人々が分布する範囲のことです。統計的なものと、予防医学的なものがあります。病気の有無については、医師の判断が必要です。